

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	船橋で芽生えた在宅医療介護連携 ひまわりの花を咲かせよう ～地域包括ケアの実現に向けて～
演者名	玉元弘次 1) 杉田勝 2) 中村順哉 3) 松岡かおり 4) 齋藤俊夫 5) 杉山宏之 6)
所属	1)2)3)4)5)6) 船橋在宅医療ひまわりネットワーク 1)3)4) 船橋市医師会 5) 船橋歯科医師会 6) 船橋薬剤師会 2) 船橋市介護支援専門員協議会

**【背景】** 人口約 6 2 万人の千葉県船橋市においては、これまでも、医師会や地域の病院・診療所を中心として発足した団体などが、それぞれ在宅医療・介護の充実に精力的に取り組んできた。その中では、「団体間の実質的なつながりが弱く、協働して事業を行う意識が低い」「勉強会等が頻繁に開催されるため関係者の疲労が蓄積する」「市全域にわたる医療・介護連携の仕組みづくりに取り組む場がない」といった課題が顕在化していた。

**【目的】** 船橋市における地域包括ケアを実現するため、多くの医療・介護職種や行政が一体となって、市全域で偏りのない在宅医療・介護の充実に取り組む連携基盤を整備する。

**【方法】** 船橋市が平成 2 4 年度に設置した船橋市地域在宅医療推進連絡協議会が掲げた在宅医療・介護の推進に関する基本的な方針に基づき、平成 2 5 年 5 月、医療・介護関連団体に市民活動団体及び行政を加えた 1 9 団体で構成する船橋在宅医療ひまわりネットワークを任意団体として設立した。同ネットワーク内に「在宅医療支援拠点のあり方委員会」「顔の見える連携づくり委員会」「人材育成委員会」「安心の確保委員会」「資源情報管理委員会」を設置し、市民を支えるための方策に多職種連携を軸として取り組んでいる。

**【実践効果】** 単一の職種・団体では困難であった市全域にわたる医療・介護連携の仕組みづくりについて、多角的な視点から取り組むことが可能となった。さらに、従前から活動していた団体と協働し、また、それぞれが保有する情報や知識を互いに有効的に活用することにより、在宅医療・介護の充実に向けた相乗効果が期待される。

**【考察】** 医療・介護関連団体に加え、行政が積極的に関与することにより、強い連携基盤が生まれた。今後、地域での活動をさらに深めるためには、職能団体に加入せず、独自に活動している医療・介護関係者との連携協力関係を築くことが欠かせない。